

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター
所 長 長 嶺 和 弥
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について
平成 31 年度病害虫発生予察注意報第1号を公表したので送付します。
平成 31 年度病害虫発生予察注意報第1号

アフリカシロナヨトウの防除対策について

令和元年(2019 年)8 月に沖縄本島北部国頭村、本部町、今帰仁村のイネ科牧草採草地及びさとうきび(本部町)においてチョウ目幼虫による食害が確認され(図1、2、3、4)、那覇植物防疫事務所に同定依頼した結果、アフリカシロナヨトウ *Spodoptera exempta* (Walker) と確認された。本虫の発生は、平成 22 年(2010 年)に、沖縄県多良間村(多良間島)、竹富町(西表島)で国内初の食害が確認され、今回の発生はそれ以来である。本虫は、牧草及びイネ科雑草、さとうきびへの加害が確認されており、被害を最小限に食い止めるためには、早期発見、早期の防除対策が重要である。

1 生態

- (1) 本種は葉上に卵塊で産卵する。卵塊には鱗毛が付着する。1卵塊は 100~400 卵程度。生涯産卵数は、1 雌当たり約 1,000 卵。卵期間は2~4日。
- (2) ふ化直後の幼虫は体が白色で、その後3齢までは緑色。高密度の場合、褐色から黒色になり頭部も黒化する(図5、6)。幼虫期間は約2~3週間、成熟した幼虫は地表面から2~3cm 程度潜り、蛹室内で蛹化する(図7、8)。蛹期間は約7~12 日。
- (3) 成虫の開翅長は雌が約 30mm、雄が約 28mm。前翅は灰褐色から暗褐色で楕円形と腎臓型の斑紋が見られる。後翅は淡褐色から灰褐色で、褐色の翅脈線および前縁は暗褐色で縁取られる。成虫寿命は約 10 日間。夜行性で移動性が高いとされている(図9、10)。
- (4) 生態・発育期間はアフリカ個体群の調査報告を参考にしているが、沖縄県における生態・発育期間は不明である。

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 防除は幼虫期の実施が効果的なので、ほ場及び周辺の見回りを行い幼虫の早期発見に努める。
- (2) 同様な虫が発生した場合は下記までご連絡ください。



図1. 採草地の被害状況



図2. 新葉加害状況



図3. さとうきびの被害状況



図4. 確認された幼虫



図5. 中～老齢幼虫(孤独相)



図6. 黒化した老熟幼虫(群生相)



図7. 枯草の下の蛹



図8. 土中の蛹



図9. 雄成虫(多良間島産)



図10. 雌成虫(多良間島産)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>